

衆議院小選挙区 政見放送（持ち込みディスク）に関する留意事項

日 本 放 送 協 会

貴政党が、自ら制作した政見をNHKに提出する場合には、以下の点に十分注意し、確実に処理したうえで、提出してください。

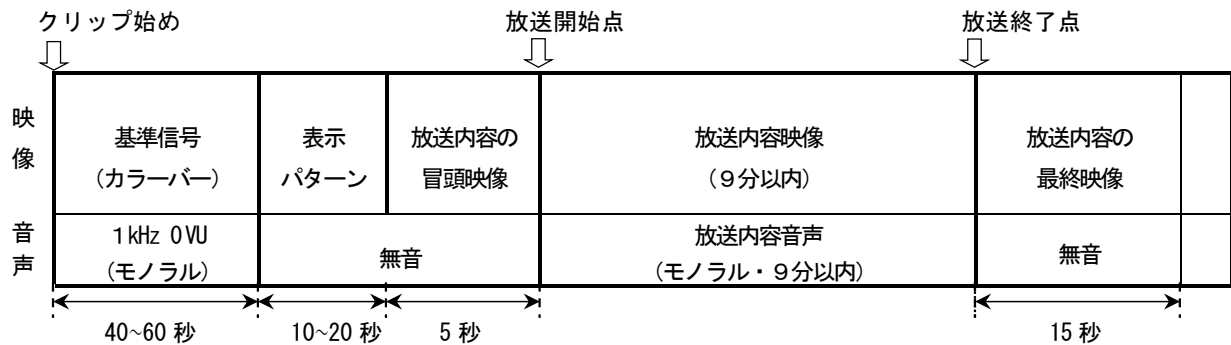
- 1 公職選挙法では、候補者届出政党は、政見放送を行う際には、その責任を自覚し、他人や他の政党などの名誉を傷つけたり、善良な風俗を害したり、または、特定の商品の広告その他の営業に関する宣伝をするなど、いやしくも政見放送の品位を損なう言動をしてはならないと規定されています。内容によっては候補者本人や関係者が民事上・刑事上の責任の責任を問われる可能性がありますのでご注意ください。
法律に従って品位を保った政見を制作してください。
- 2 公職選挙法では、候補者届出政党が行う小選挙区の政見放送では、その政党が選管に届け出た候補者以外の候補者に触れた放送はできないことになっています。
たとえ貴政党が推薦していても、他の政党の候補者や無所属の候補者に対する応援などは、政見放送の中ではできない規定になっていますので、ご注意ください。
- 3 総務省が定める政見放送の実施規程では、政党が自ら制作する政見放送の録音や録画にあたっては、著作権法に規定する著作権者人格権や著作権、それに、著作隣接権を侵害するものであってはならないと規定されています。映像だけでなく、楽曲などの音声についても同様です。規程に従って著作権などの処理は確実に行ってください。
例えば、NHKなどで放送された国会中継等の映像を使用になる際、私的に録画されたものを使用することはできません。NHKなどに複製等の申請を行ない、入手してください。
- 4 実施規程では、政党が自ら制作する政見は、その政見を放送する放送局が定める技術基準を満たさなければならないと規定されています。
提出される政見は、NHKの定める技術基準を十分に参照して制作してください。また、政見は1種類につき2枚（本番と予備）提出してください。
- 5 政見のディスクには、都道府県名および候補者届出政党名を記入してください。また、2種類のディスクを提出する場合には、Aディスク・Bディスクの別を記入して下さい。
- 6 制作した政見は、公示（告示）日の午後5時までに、NHKに提出してください。政見の内容時間や映像・音声など技術チェックを行う必要がありますので、政見の提出にあたっては、候補者届出政党の政見放送担当責任者、または、その代理人と政見を制作したプロダクションの技術担当者の来局をお願いします。
- 7 政見放送中でも、必要があれば地震情報や気象警報等を画面右側に縦2行まででスーパーすることがありますので、制作にあたって注意してください。

資料（２）

- ・デジタル音声信号のプリエンファシスは用いない。
- ・過度のコンプレッションや過度の高域周波数の強調を行わないこと。

（３）タイムコード： 表示パターン開始点から最終映像終了点まで連続したタイムコード（LTC）が収録されていること。ドロップフレーム（DF）を使用すること。

＜提出するディスクの収録フォーマット＞



※注 基準信号から放送内容の最終映像までは同一クリップで収録されていること。

＜提出するディスクの収録フレーム＞

提出ディスクの内容は、16：9のハイビジョンフレームで制作する。

注意 ※放送は、提出されたディスクからNHKの放送用メディアにコピーして行う。
※本技術基準は選挙ごとに見直すことがあります。事前にNHKにお問い合わせください。

5. いわゆる「光点滅」について

連続する大量のカメラフラッシュなどの映像は、視聴者の健康に影響を及ぼすおそれがあります。NHKで技術的なチェックを行い、健康に影響を及ぼす恐れのある映像があると判断された場合、手直しをお願いすることもありますので、「アニメーション等の映像手法に関するガイドライン」を確認していただき、政見放送の作成にはご配慮をお願いします。

6. ラジオについて

◆納品メディア

提出にあたっては、テレビと同様にXDカムディスクで納品。
テレビの音声と同じ内容の場合、兼用することができ、
別に納品する必要はなし。（その旨を表示パターンに記載すること）

◆基準信号

テレビ基準で収録した物を納品。



補足資料

**政見放送の政党提出ディスク制作における
NHKの技術基準について（衆議院選挙）**



目次

1. はじめに（p 3）
2. 持ち込み政見（XDカムディスク）の技術基準（p 4）
3. 各項目の補足事項（p 5～11）

1. はじめに

◆この資料は、衆議院選挙小選挙区における、政見放送の政党提出ディスク(以下、持ち込み政見)技術基準についての補足資料です。

◆技術基準は、公平性を担保するために放送時の映像/音声の品質に大きな差が生じないようにするのが目的です。

◆持ち込み政見の制作にあたっては、
NHKの定める技術基準（別紙）を十分に参照してください。

◆当該基準は、政見を放送するNHKが独自に規定したものであり、民放の基準とは異なる部分があります。

◆基準をみたさないディスクは、NHKで受け付けることができません。

(放送時に映像音声や文字の内容などが視聴者に伝わらない可能性があります)

持ち込み政見（XDカムディスク）の技術基準

衆議院小選挙区

政見放送（テレビ・ラジオ）の政党提出XDカムディスクの技術基準

日本放送協会

1. ディスク（テレビ・ラジオとも同一規格）

- (1) 種類 XDカム用 PFD (Professional Disc)。
- (2) ディスク 1層式 PFD23A: リライタブル（書き換え型）23GB または
2層式 PFD50DLA: リライタブル（書き換え型）50GB

2. 映像周波数

映像は、フレーム周波数は29.97Hz、フィールド周波数は59.94Hzのインターレース信号とする。

3. 収録フォーマット（テレビ・ラジオとも同一規格）

- (1) 下図「提出するディスクの収録フォーマット」と「提出するディスクの収録フレーム」に従って記録する。
- (2) 記録コーデック: SONY XDCAM MPEG HD422
ビットレート50Mbps（1920×1080）で記録

(3) 基準信号

映像: ARIBマルチフォーマット・カラーバー (ARIB STD-B28準拠)
またはこれに代わる信号。

100%白、0%黒の部分があること。

音声: 1kHz 0VU (−18dBFS)。

1・2チャンネルに同一信号を記録する。

- (4) 表示パターンには、「都道府県名・党名」、「テレビ・ラジオの別」、「内容時間（9分以内）」、2種類のディスクを提出するときは「Aディスク」、「Bディスク」の区別を表示する。

- (5) 放送開始点は、表示パターン終了から5秒後とする。表示パターンから放送開始点までの5秒間は、放送内容の冒頭映像を記録する。また、放送終了点後約15秒間は、放送内容の最終映像を記録する。

4. 収録レベル等（テレビ・ラジオとも同一規格）

- (1) 映像: 輝度信号は、最大値が100%を超えないこと、最小値が0%を下回らないこと。
 - ・トランジェントパルスの成分は、+109%まで許容する。なお、マイナス方向の輝度信号は存在してはならない。
 - ・セットアップは0%とする。クロマ信号は、ベクトルスコープの100%原色点（R、Ye、G、Cy、B、Mgの6点）を結ぶ六角形内に収まっていること。

- (2) 音声: 平均ラウドネス値を−24.0LKFS とすること。

ただし、±1LKFSを許容範囲とする。

(参考: ラウドネス値測定は、モノ出力をラウドネスメーターのL/Rにパラで入力する。
または1・2CH同じ音声で制作し、その1・2CH出力をL/Rに入力する。)

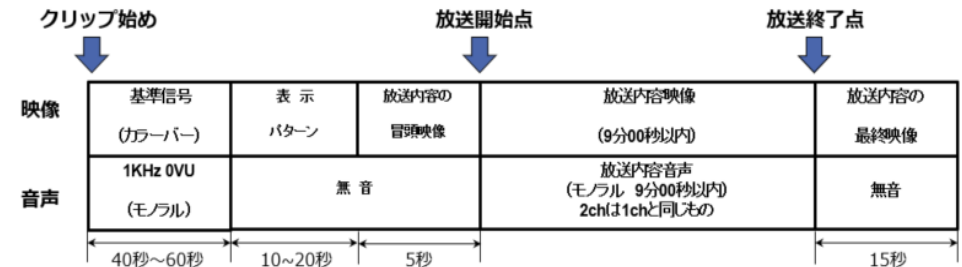
・ピークレベルはサンプルピークメーターで−3dBFS 以内とする。

・モノラル（1CH=主音声、2CH=1CHと同じ音声）

・過度のコンプレッションや過度の高域周波数の強調を行わないこと。

- (3) タイムコード: 表示パターン開始点から最終映像終了点まで連続したタイムコード（LTC）が収録されていること。ドロップフレーム（DF）を使用すること。

<持ち込みディスクの記録フォーマット>



※注 基準信号から放送内容の最終映像までは同一クリップで収録されていること。

<提出するディスクの収録フレーム>

提出ディスクの内容は、16:9のハイビジョンフレームで制作する。

注意 ※放送は、提出されたディスクからNHKの放送用メディアにコピーして行う。
※本技術基準は選挙ごとに見直すことがあります。事前にNHKにお問い合わせください。

5. いわゆる「光点滅」について

連続する大量のカメラフラッシュなどの映像は、視聴者の健康に影響を及ぼすおそれがあります。NHKで技術的なチェックを行い、健康に影響を及ぼす恐れのある映像があると判断された場合、手直しをお願いすることもありますので、「アニメーション等の映像手法に関するガイドライン」を確認していただき、政見放送の作成にはご配慮をお願いします。

6. ラジオについて

◆納品メディア

提出にあたっては、テレビと同様にディスクで納品。

テレビの音声と同じ内容の場合、兼用することができ、

別に納品する必要はなし。（その旨を表示パターンに記載すること）

◆基準信号

テレビ基準で収録した物を納品。

3. 各項目の補足事項

持ち込み政見（XDカムディスク）の技術基準

1. ディスク（テレビ・ラジオとも同一規格）

- (1) 種類 XDカム用 PFD（Professional Disc）
- (2) ディスク 1層式 PFD23A：リライタブル（書き換え型 青色）23GB または
2層式 PFD50DLA：リライタブル（書き換え型 赤色）50GB



【PFD23A】



【PFD50DLA】

→ 黄色の3層ディスクは使用できません。

2. 映像周波数

映像はフレーム周波数は29.97Hz、フィールド周波数は59.94Hzのインターレース信号とする。

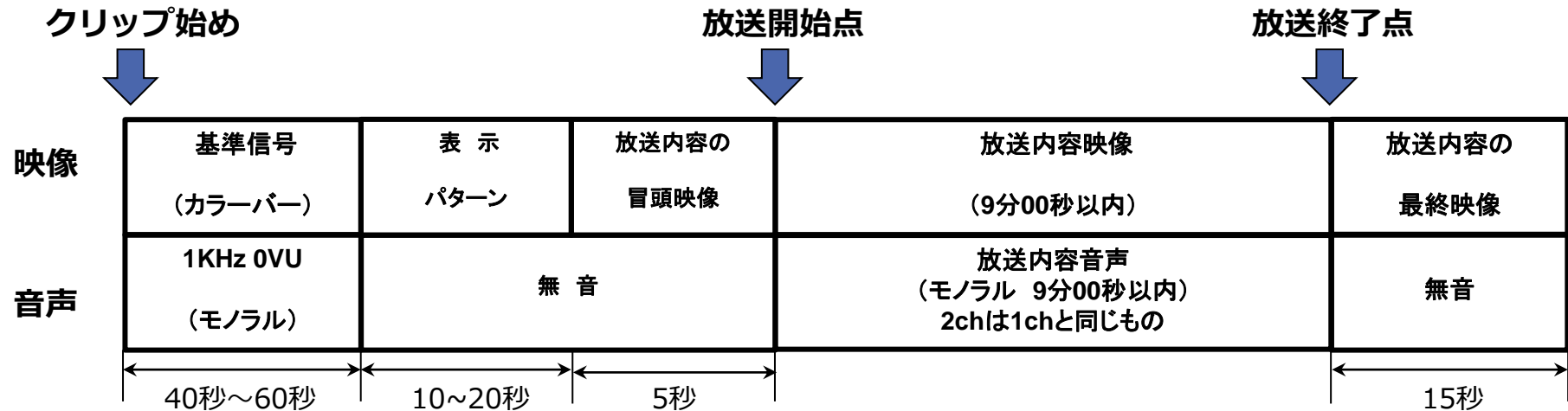
→ 24Pや30Pなどのプログレッシブ映像は受け付けることができません。

持ち込み政見（XDカムディスク）の技術基準

3. 収録フォーマット（テレビ・ラジオとも同一規格）

（1）＜提出するディスクの収録フォーマット＞と＜提出するディスクの収録フレーム＞に従って記録する。

＜持ち込みディスクの記録フォーマット＞



※注 基準信号から放送内容の最終映像までは同一クリップで収録されていること。

＜提出するディスクの収録フレーム＞

提出ディスクの内容は、16：9のハイビジョンフレームで制作する。

注意 ※放送は提出されたディスクからNHKの放送用メディアにコピーして行う。

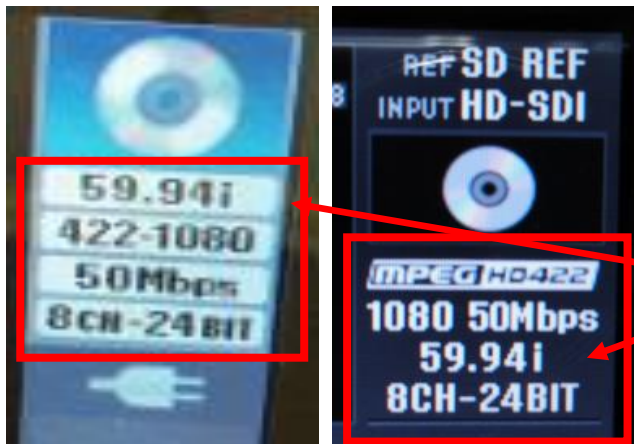
持ち込み政見（XDカムディスク）の技術基準

3. 収録フォーマット（テレビ・ラジオとも同一規格）

（2）記録コーデック：SONY XDCAM MPEG HD 4 2 2

ビットレート50Mbps（1920×1080）で記録

→ 記録コーデックが異なった場合、NHK側でコーデック変換は行いません。



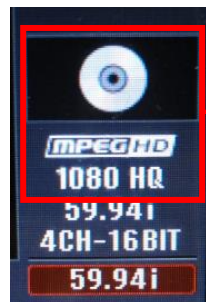
PDW-HD1500
操作パネル表示

XDS-PD2000
操作パネル表示

- ・ファイル形式（拡張子）：MXF
- ・コーデック：SONY XDCAM MPEG HD422
ビットレート50Mbps（1920×1080）
- ・オペレーションパターン：OP1A

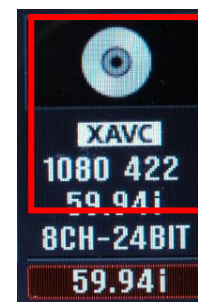
※ XDカムデッキ表示部でフィールド周波数、記録コーデックなどの確認ができます。

【NG例1】



コーデックL35
MPEG HD420 35Mbps

【NG例2】



コーデックXAVC
(AVC/I100 OP1A) 100Mbps

持ち込み政見（X Dカムディスク）の技術基準

3. 収録フォーマット（テレビ・ラジオとも同一規格）

（3）基準信号

映 像：A R I B マルチフォーマット・カラーバー（A R I B S T D - B 2 8 準拠）
またはこれに代わる信号。1 0 0 % 白、0 % 黒の部分があること。

音 声：1 k H z 0 V U （- 1 8 d B F S）1 ・ 2 チャンネルに同一信号を記録する。

（4）表示パターンには、「候補者名」「政党名」「道府県名」、「テレビ・ラジオの別」、「内容時間（9分00秒以内）」を表示する。

（5）放送開始点は、表示パターン終了から5秒後とする。表示パターンから放送開始点までの5秒間は、放送内容の冒頭映像を記録する。また、放送終了点後約15秒間は、放送内容の最終映像を記録する。

持ち込み政見（XDカムディスク）の技術基準

4. 収録レベル等（テレビ・ラジオとも同一規格）

（1）映像：輝度信号は、最大値が100%を超えないこと、最小値が0%を下回らないこと。

- ・トランジェントパルスの成分は、+109%まで許容する。なお、マイナス方向の輝度信号は存在してはならない。

※ トランジェントパルスの … 定期的に発生しない信号（波形）

- ・セットアップは0%とする。

→ 0%以下となる部分がある場合は修正を求めます。

- ・クロマ信号は、ベクトルスコープの100%原色点（R、Ye、G、Cy、B、Mgの6点）を結ぶ六角形内に収まっていること。

→ 100%を超えても、以下の場合には問題ありません。

- ・通常のカメラ調整で表現しているハイライト部分
- ・オーバーシュート領域（100～109%）を表現するためのトランジェント的パルス
- ・100%を超える輪郭部分波形のひげ など

→ ただし、基準規定の電気信号によるバックカラーやテロップの白レベルなどが100%を超えるものは、NGとして修正を求めます。

持ち込み政見（XDカムディスク）の技術基準

4. 収録レベル等（テレビ・ラジオとも同一規格）

- (2) 音 声：平均ラウドネス値を -24.0 LKFSとすること。（ ± 1 LKFSを許容範囲とする）
（参考：ラウドネス値測定は、モノ出力をラウドネスメーターのL/Rにパラで入力する。
または1・2 CH同じ音声で制作し、その1・2 CH出力をL/Rに入力する。）

- ・ピークレベルはサンプルピークメーターで -3 dBFS以内とする。

- ・モノラル（1 CH＝主音声、2 CH＝1 CHと同じ音声）

→ **ステレオで収録された素材は受け取ることができません。**

- ・過度のコンプレッションや過度の高域周波数の強調を行わないこと。

- (3) タイムコード： 表示パターン開始点から最終映像終了点まで連続したタイムコード（LTC）が収録されていること。ドロップフレーム（DF）を使用すること。

→ **ノンドロップフレーム（NDF）の素材は受け取ることができません。**

持ち込み政見（X Dカムディスク）の技術基準

5. いわゆる「光点滅」について

連続する大量のカメラフラッシュなどの映像は、視聴者の健康に影響を及ぼすおそれがあります。NHKで技術的なチェックを行い、健康に影響を及ぼす恐れのある映像があると判断された場合、手直しをお願いすることもありますので、「アニメーション等の映像手法に関するガイドライン」をご確認いただき、政見放送の作成にはご配慮をお願いします。

6. ラジオについて

◆納品メディア

提出にあたっては、テレビと同様にX Dカムディスクで納品。
テレビの音声と同じ内容の場合、ディスクを兼用することができ、別に納品する必要はなし。（その旨を表示パターンに記載すること）

→ **テレビの音声で無音が続く部分は、そのままラジオでも無音になることをご留意下さい。**

◆基準信号

テレビ基準で収録した物を納品。

1998年4月8日 作 成

2006年4月1日一部改訂

2020年4月1日一部改訂

アニメーション等の映像手法について

日 本 放 送 協 会

日本民間放送連盟

日本放送協会〔NHK〕と日本民間放送連盟〔民放連〕は、1997年にアニメーション番組等の特殊な映像手法が、視聴者、それも多くの子どもたちの健康に影響を及ぼすという重い事態を経験した。

本来、子どもたちに楽しんでもらうはずの放送番組が、一部でその逆の結果を招いてしまったことを、われわれは深く憂慮するとともに、これを放送界全体の問題として捉え、医学者や心理学者などの専門家を加えて真摯に原因を分析・研究しながら、再発防止のための具体的なルールづくりに向けて検討を重ねてきた。

その結果、テレビは本来、明滅しているメディアであるため、視聴者、特に子どもたちへの影響を完全に取り除くことはできないものの、細かく点滅する映像や急激に変化する映像手法に関して、いくつかの点に留意することにより、こうした危険をかなりの程度、回避できることを確認した。

このため、次の点について細心の注意を払う必要があることを喚起する。

- 1.映像や光の点滅、特に「鮮やかな赤」の点滅
- 2.コントラストの強い画面の反転や急激な場面転換
- 3.規則的なパターン模様の使用

われわれは、こうした認識に立って、各放送局が自主的に、運用上の内規等を定めることを促すとともに、その参考に供するため、放送界としての共通のガイドラインを1998年4月に示した。

さらに、ITU〔国際電気通信連合〕において、2005年2月にITU-R勧告BT.1702 “Guidance for the reduction of photosensitive epileptic seizures caused by television（テレビ映像による光感受性発作を抑えるための指針）”が成立したことから、同勧告を参考にガイドラインを一部改訂した。2019年10月にはITU-R勧告BT.1702-2として、高ダイナミックレンジ(HDR:High Dynamic Range)映像に関する内容が盛り込まれ成立したため、ガイドラインを一部改訂しHDR映像に関する読み替え規定を追記することとした。

放送に携わるすべての者は、以下に提示するガイドラインが作られた意図を十分に配慮し、放送界の自主的な共通ルールとして遵守しなければならない。

このガイドラインは、今後の分析・研究の結果等により、必要に応じて改訂する。

<アニメーション等の映像手法に関するガイドライン>

1. 映像や光の点滅は、原則として1秒間に3回を超える使用を避けるとともに、次の点に留意する。

- (1) 「鮮やかな赤色」の点滅は特に慎重に扱う。
- (2) 避けるべき点滅映像を判断するにあたっては、点滅が同時に起こる面積が画面の1/4を超え、かつ、輝度変化が10パーセント以上の場合を基準とする。
- (3) 前項(1)の条件を満たした上で、(2)に示した基準を超える場合には、点滅は1秒間に5回を限度とし、かつ、輝度変化を20パーセント以下に抑える。加えて、連続して2秒を超える使用は行わない。

※200cd/m²超の高輝度領域を含むHDR(High Dynamic Range)映像については、

(2) (3)を以下のとおり読み替える。

(2) 避けるべき点滅映像を判断するにあたっては、点滅が同時に起こる面積が画面の1/4を超え、かつ、輝度変化が次の①または②の場合を基準とする。

① 点滅暗部が160cd/m²未満で、輝度変化が20cd/m²以上の場合

② 点滅暗部が160cd/m²以上で、輝度変化が点滅暗部の1/8を超える場合

(3) 前項(1)の条件を満たした上で、(2)に示した基準を超える場合には、点滅は1秒間に5回を限度とし、かつ、輝度変化を次の①または②に抑える。加えて、連続して2秒を超える使用は行わない。

① 点滅暗部が160cd/m²未満の場合、輝度変化を40cd/m²以下

② 点滅暗部が160cd/m²以上の場合、輝度変化を点滅暗部の1/4以下

2. コントラストの強い画面の反転や、画面の輝度変化が20パーセントを超える急激な場面転換は、原則として1秒間に3回を超えて使用しない。

※ 200cd/m²超の高輝度領域を含むHDR映像については、以下のとおり読み替える。

2. コントラストの強い画面の反転や、次の①または②に該当する急激な場面転換は、原則として1秒間に3回を超えて使用しない。

- ① 点滅暗部が $160\text{cd}/\text{m}^2$ 未満で、
画面の輝度変化が $40\text{cd}/\text{m}^2$ を超える場面転換
- ② 点滅暗部が $160\text{cd}/\text{m}^2$ 以上で、
画面の輝度変化が点滅暗部の $1/4$ を超える場面転換

3. 規則的なパターン模様（縞模様、渦巻き模様、同心円模様など）が、画面の大部分を占めることも避ける。

（注1）本ガイドラインの計測においては、

SDR映像信号の公称ピークレベルは輝度 $200\text{cd}/\text{m}^2$ で表示されることを想定する。

また、HDR映像信号の公称ピークレベルは、HLG(Hybrid Log-Gamma)方式では輝度 $1,000\text{cd}/\text{m}^2$ で、

PQ(Perceptual Quantisation)方式では輝度 $10,000\text{cd}/\text{m}^2$ で、それぞれ表示されることを想定する。

（注2）HDR映像に関する読み替え規定については、運用体制が整った放送局から、速やかに適用を開始する。

上記ガイドラインの運用にあたっては、特に光感受性のリスクが大きいとされる幼児・児童・青少年の視聴実態等への配慮が必要である。

また、連続する大量のカメラフラッシュや雷光、火災、火山噴火などの映像が健康に影響を及ぼすおそれがあることについて、制作者側の意識を高めることに努める必要がある。

映像が視聴者に及ぼす影響をできるだけ少なくするためには、テレビの視聴方法も重要な役割を果たしていることが指摘されており、明るい部屋で受像機から離れて見るなど“テレビの見方”に関する適切な情報を視聴者に提供することは予防手段として有効である。

以上

衆・小

代理人証明書

住 所

氏 名

生年月日

年

月

日生

上記の者は、

の政見放送担当責任者

に代って政見放送の申込みに関す

る事務を行うものであることを証明します。

年 月 日

候補者届出政党の名称

政見放送担当責任者の氏名



住 所

備考 この書類は、政見放送担当責任者の代理人が政見放送の申込みを行う場合
以外には必要ありません。

年 月 日執行衆議院小選挙区選出議員選挙
政 見 放 送 申 込 書

都 道 府 県 名			
ふ り が な 候補者届出政党の名称			
本 部 の 所 在 地			
ふ り が な 代 表 者 の 氏 名			
届 出 候 補 者 の 数		人	
政見放送担当責任者の 氏名、連絡場所及び 電話番号		氏 名 連絡場所 電話（ — — ）	
放 送 回 数		テレビ 回	ラジオ 回
選 択	政 党 提 出 (持ち込み)	テレビ 種類 (うちラジオ用にも使用するもの 種類)	ラジオ 種類
	録 画 方 式 (局 収 録) 〔別紙1 のとおり〕	Aディスク (方式) Bディスク (方式)	Aディスク (方式) Bディスク (方式)

上記のとおり政見放送を申込みます。

年 月 日

候補者届出政党の名称

代 表 者 の 氏 名



N H K ○ ○ 放 送 局 殿

- 備考
- 録画方式の欄には、収録回数が1回の場合はAディスクの欄のみに記入し、収録回数が2回の場合はAディスク及びBディスクの欄についてそれぞれの方式を記入すること。
 - Aディスク及びBディスクを提出または収録する候補者届出政党は、公示（告示）日の翌日の正午までに、Aディスク及びBディスクのそれぞれの放送希望日時を別紙2に記入し、受付局に通知すること。

確 約 書

年 月 日

N H K ○ ○ 放 送 局 殿

候補者届出政党の名称

代 表 者 の 氏 名



衆議院小選挙区選出議員選挙における候補者の届出にあたり、
候補者届出政党の名称及び届出候補者の数について、
下記の通り、選挙長に届け出ることを約束します。

ふ り が な			
候補者届出政党の名称			
都 道 府 県 名		届出候補者の数	人

なお、複数方式による録音又は録画を行う場合には順次登場する候補者となろうとする者を候補者として届け出ること、また、字幕による届出候補者の紹介を行う場合には「字幕により届出候補者を紹介する場合の紹介順位及び氏名」にその氏名等を記載された者を届出候補者として、また、それらの氏名又は通称に関し、通称を記載した者については当該通称の認定を申請すること、また、氏名を記載した者については、通称の認定を申請しないことを約束します。

資料(6)
様式見本テレビ
ラジオ 政見放送 提出ディスク確認シート

年 月 日

党名	都道府県名
政見放送担当責任者	
制作プロダクション	技術担当者 電話

- (1) ディスクの種類 ☐ Aディスク ☐ Bディスク
- (2) 内 容 時 間 分 秒
- (3) 収録技術情報
- * 記録コーデック SONY XDCAM MPEG HD 4 2 2 (L 5 0) ☐
 - * 音 声 記 録 ☐ 1 ch ☐ 2 ch
 - * タイムコード (DF の L T C) ☐ 有 ☐ 無
 - * 放送開始点のタイムコード H M S F
 - * 放送終了点のタイムコード H M S F
 - * 平均ラウドネス値 — LKFS
- (4) フォーマット
- * 基 準 信 号 秒
 - * 表 示 パ タ ー ン 秒
 - * 冒 頭 映 像 秒
 - * 音 映 出 秒
 - * 映 像 残 し 秒
- (5) 試 写 結 果

ディスク障害 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 (キズ・その他)
特 記 事 項

上記のとおり相違ありません

政見放送担当責任者	制作プロダクション 技術担当者	NHK側責任者	NHK側技術担当者

資料（７）

衆・小

（別紙１）

（ ）ディスク録画（録音）方式届

ふ り が な 候補者届出政党の名称			
録 画 方 式		方式	
単 独 方 式 又は 対 談 方 式 の場合	出席者の肩書及び氏名	(ふりがな) (肩 書)	(ふりがな) (肩 書)
		(ふりがな) (氏 名)	(ふりがな) (氏 名)
		(満 歳)	(満 歳)
	字幕による届出候補者の紹介	(該当するものに○印を付けること。) ア 希望する (人)。 イ 希望しない。 (紹介する届出候補者の紹介順位及び 氏名は添付書類１のとおり。)	
複 数 方 式 の場合	司会者の肩書及び氏名	(ふりがな) (肩 書)	(ふりがな) (肩 書)
		(ふりがな) (氏 名)	(満 歳)
	出席する届出候補者数	人	
	出席者氏名	添 付 書 類 ２ の と お り	
	ラ ジ オ 別 録 音	(該当するものに○印を付けること。) ア 希望しない。 イ 希望する。 (方式)	

（テレビと別途にラジオを局収録する場合に記入すること。）

単 独 方 式 又 は 対 談 方 式 の場合	出席者の肩書及び氏名	(ふりがな) (肩 書)	(ふりがな) (肩 書)
		(ふりがな) (氏 名)	(ふりがな) (氏 名)
		(満 歳)	(満 歳)
複 数 方 式 の場合	司会者の肩書及び氏名	(ふりがな) (肩 書)	(ふりがな) (肩 書)
		(ふりがな) (氏 名)	(満 歳)
	出席する届出候補者数	人	
	出席者氏名	添 付 書 類 ２ の と お り	

備考 1. 標題の「（ ）ディスク」の（ ）内には、Aディスク又はBディスクの別を記入すること。
2. 出席者又は司会者が届出候補者である場合において、当該者に選挙長の認定した通称がある場合には、氏名欄には当該通称を記入すること。
また、年齢は選挙期日現在の年齢を記入すること。

字幕により届出候補者を
紹介する場合の紹介順位及び氏名

候補者届出政党の名称		
<div>(該当するものに○印を付けること。)</div> <div>ア． A ディスクイ． B ディスク</div> <div>※ 録画回数が 1 回の場合には、ア．に○印を付けること。</div>		
紹介順位及び氏名		
紹介順位	選挙区	氏名又は通称
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		

備考 1.この様式は（別紙１）１枚ごとにそれぞれ作成すること。
2.選挙長の認定した通称がある場合には、「氏名又は通称」欄には当該通称を記入すること。
3.選挙区の欄には「東京１区」のように記入すること。

資料 (9)

添付書類 1 - ()

衆・小

[illegible]

衆・小

複数方式に出席する届出候補者の氏名

候補者届出政党の名称	
<div>(該当するものに○印を付けること。)</div> <div>ア. Aディスクイ. Bディスク</div> <div>※ 録画回数が1回の場合には、ア. に○印を付けること。</div>	
テレビジョン放送、 ラジオ放送の別	<div>(該当するものに○印を付けること。)</div> <div>ア. テレビジョン放送イ. ラジオ放送</div>
出席する届出候補者の氏名又は通称	

備考 1.この様式は（別紙１）１枚ごと、テレビ・ラジオの別ごとにそれぞれ作成すること。
2.選挙長の認定した通称がある場合には、「出席する届出候補者の氏名又は通称」欄には当該通称を記入すること。

(資料 1 1)

添付書類 2 - ()

衆・小

[illegible]

※NHKが用意します

衆・小

年 月 日執行
衆議院小選挙区選出議員選挙
政見放送録画（録音）日時決定票

都 道 府 県 名 発行 第 年 月 日 号

（ふりがな）
候補者届出政党の名称

政見放送担当責任者氏名 殿

連 絡 先 〔電話〕 (内線)

政見放送の録画（録音）を下記のとおり実施します。

() ディスク	録画（録音）日時 年 月 日 (曜) 午前・午後 時 分 来着
	録画（録音）方式
() ディスク	録画（録音）日時 年 月 日 (曜) 午前・午後 時 分 来着
	録画（録音）方式

収録場所

所 在 地

電話番号

政見放送受付責任者



- （備考）
- 定められた日時および場所においてにならない場合は、政見を放送できないこととなりますから、ご注意ください。
 - 政見の録画（録音）に必要な時間は、録画方法により多少変わりますが、打合わせ、化粧に30分程度、スタジオでの録画は1時間程度、合計1時間30分程度かかります。
 - 録画（録音）したあと内容の変更はできません。
 - 政見放送の日は申し込み締め切り後、選管が通知します。
 - 録画（録音）においてになる時はこの決定票をご持参ください。
 - 録音物使用申請書を提出された出席者の政見放送の音声は、録画用原稿を朗読し録音したものを再生して収録します。

衆・小

NHK 用意

Aディスク及びBディスクを提出又は 収録する候補者届出政党の各ディスクの 放送日時指定の通知書

テレビジョン放送

A ディスクの放送日時					B ディスクの放送日時				
月	日	午前 午後	時	分	月	日	午前 午後	時	分
月	日	午前 午後	時	分	月	日	午前 午後	時	分
月	日	午前 午後	時	分	月	日	午前 午後	時	分
月	日	午前 午後	時	分	月	日	午前 午後	時	分
月	日	午前 午後	時	分	月	日	午前 午後	時	分
月	日	午前 午後	時	分	月	日	午前 午後	時	分
月	日	午前 午後	時	分	月	日	午前 午後	時	分

ラジオ放送

A ディスクの放送日時					B ディスクの放送日時				
月	日	午前 午後	時	分	月	日	午前 午後	時	分
月	日	午前 午後	時	分	月	日	午前 午後	時	分
月	日	午前 午後	時	分	月	日	午前 午後	時	分

上記のとおり、各ディスクの放送日時の指定の通知をします。

年 月 日

候補者届出政党の名称

本部の所在地

代表者の氏名
(政見放送担当責任者)

印

NHK〇〇放送局 殿

備考 ①この通知書は、公示（告示）日の翌日の正午までに提出すること。
②放送日時については、その政見放送枠の開始時刻を記入すること。

衆議院小選挙区
候補者用

候補者経歴書

一、選挙区																																																																																																							
二、候補者届出政党の名称																																																																																																						
三、氏名		性別																																																																																																				
四、生年月日	年 月 日 (歳)																																																																																																						
五、主要な経歴	<table><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>																																																																																																						
六、写真貼付欄	<table><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>																																																																																																						

右のとおり提出します。
年 月 日

候補者の住所

候補者の氏名



N H K ○ ○ 放送局 殿

- (備 考) 一、選挙区欄は「○○県第○区」と記入し、公示(告示)日の午後五時までにNHKが指定する場所に提出する。
- 二、候補者届出政党の名称欄には、候補者届出政党の届出候補者のみが記入する。また、名称の字数が二十字を超える場合は、放送用として二十字以内の略称を併記する。
- 三、氏名欄には、当該選挙長の認定した通称があるときは、その通称を記載する。
- 四、年齢欄には、選挙の期日により算定した満年齢を記載する。
- 五、主要な経歴欄には、五十字以内で記載し、固有名詞・漢字・アルファベットにはふりがなをつける。
- 六、写真貼付欄に写真を一枚貼り付けるとともに、同じ写真を二枚添付する。

(注 意) 経歴書を提出しない候補者の経歴放送は、氏名、年齢、候補者届出政党の名称、職業の紹介に限られます。また、写真の提出のない候補者はテレビでは字幕のみの経歴放送になります。

衆・小

出席証明書

政党政見録音等出席者	
氏名	住所

右の者は、 年 月 日 執行の衆議院小選挙区選出議員選挙
における本政党のラジオ放送（テレビジョン放送）による政見放送のために行う録音（録画）に
出席する者であることを証明する。

年 月 日

候補者届出政党の名称
本部の所在地
代表者の氏名

印

衆・小

録音物使用申請書

年 月 日 執行の衆議院小選挙区選出議員選挙
（テレビジョン放送）による政見放送のために行う録音（録画）に録音物を使用したいので申請します。

における左記政党のラジオ放送

年 月 日

住所

政党政見録音等出席者

NH K 放送局 殿

印

記

候補者届出政党		
代表者の氏名	本部の所在地	名称

備考

二

一 候補者届出政党が政見放送の申込みをする際にこの申請書を提出すること。
二 提出する場合には、身体障害者手帳若しくは政見放送及び経歴放送実施規程第九条の第一項第一号に規定する音声機能等の障害の程度を証する書面又は戦傷病者手帳若しくは同項第二号に規定する音声機能等の障害の程度を証する書面を提示すること。

〔衆議院小選挙区用〕

都道府県名

政見放送の録音・録画に録音物を使用しようとする場合における録音用原稿用紙

[illegible]

候補者届出政党的名称〔

録音物使用申請者氏名〔

〔衆議院小選挙区用〕

都道府県名

政見放送の録音・録画に録音物を使用しようとする場合における録音用原稿用紙

[illegible]

右のとおり提出します。

年
月
日

候補者届出政党の名称

本部の所在地

代表者の氏名

録音物使用申請者の住所

氏 名

印

NHK
放送局
殿

(備考) 一、録音用原稿は、この用紙により政見放送の申込みの際、録音物使用申請書等といっしよに提出する。

二、録音用原稿は、当該政見放送の録音又は録画において録音物を使用する政党政見録音等出席者のすべてを通じて、二千五百字以内で記載し、固有名詞等にはふりがなを付ける。

常 時 介 護 者 届 出 書

住 所	
ふりがな	
氏 名	
連絡先	

上記の者は、下記候補者を常時介護するものであることを届け出ます。

令和 年 月 日

候補者の住所

候補者の氏名



NHK〇〇放送局 殿

(備考) この書類を届け出る際には、政見放送及び経歴放送実施規程第9条第5項に規定する書面等を提示すること。

代 理 人 証 明 書

住 所

氏 名

生年月日 年 月 日 生

上記の者は、候補者に代わって経歴書を提出するものであることを
証明します。

年 月 日

候 補 者 氏 名

住 所

備考 この書類は、候補者本人が経歴書を提出する場合は必要ありません。